

# 地域おこし協力隊 新メンバーを紹介します!



令和2年5月から新たに地域おこし協力隊に任命され、移住定住部門で活動するお2人を紹介します。

- ①下諏訪町の地域おこし協力隊  
になろうと思ったきっかけ
- ②下諏訪町の好きなところ
- ③今後地域おこし協力隊として  
活動していきたいこと



氏名：高橋 幸二 / 出身：神奈川県

- ①地域おこし協力隊についてお話を聞きに町役場を訪れた時、町役場担当の方と先輩隊員の方の雰囲気がとても良く気さくにお話が出来たところです。
- ②おいしい空気や風情のある街並み、きれいな朝日や夕日が大好きです。
- ③地元の方に認めて頂けるように絆を深めていきたいです。



氏名：長津友美子 / 出身：神奈川県

- ①元々下諏訪への移住を考えていて、この仕事なら町民の方々と積極的にふれあう機会がもてると思い応募しました。
- ②自然が近くにあり、古いものとそれを利用して新しく生みだされたものが共存している町並みが好きです。
- ③山でフィルム写真を撮る事が趣味なので、町と山を繋げる活動ができればいいなと思っています。



地域おこし協力隊は、移住定住部門、観光部門の計5名で活動しています。下諏訪町の魅力を多くの方に知っていただけるよう、地域の皆さんとともに頑張ります★

## 歯科コラム dental column

## 歯科医院で撮影するレントゲンについて

歯科医院ではレントゲンを頻繁に撮影しますが、一体どのようなものなのでしょうか？また体に影響はないのでしょうか？

一般の歯科医院で撮影するレントゲンは主に2つあります。目的の歯と隣の数本を写す「デンタル」という方法と、全ての歯や顎全体を写す「パノラマ」という方法です。他に「CT」という3次元撮影もありますが、いまだ普及率は低く、健康保険適応に制限があるため、撮影する機会は少ないです。いずれのレントゲン撮影も、むし歯の進行範囲や、肉眼で見ることのできない歯の根や骨の状態などを、できるだけ正確に知るためのものです。「デンタル」は、目的の歯を鮮明に写すことができるので、肉眼では見ることのできない歯の内部や根の周囲の骨の状態を知ることができます。「パノラマ」は、お口全体を写すために、歯周病や歯並びの傾向を把握し易いことに加え、親知らずなどデンタルでは撮影できない場所や顎の痛みのため口が開かない状態でも撮影できる特徴があります。

レントゲン撮影は放射線という定義の中の、X線を使用します。X線とは波長の短い高エネルギー電磁波のことです。これは、X線発生装置に高電圧をかけることによって撮影の瞬間のみ発生し、すぐに消え去るため、体の中に留まることはありません。

さて、放射線ですが、実は私たちは普通に生活しているだけでも自然界（宇宙・大地・食物など）から常に微量な放射線を浴び続けており、これを自然放射線といいます。このように私たちの体が外から受けた放射線の量は「Sv（シーベルト）」という単位で表されますが、日本において私たちが1年間に浴び続ける自然放射線量は2.1mSvと言われていています。それに比べて「デンタル」や「パノラマ」は0.002～0.01mSv程度（自然放射線の1/1000～1/200）です。ちなみに飛行機での東京～ニューヨーク間1往復では宇宙放射線の影響を受け0.11～0.16mSvです。その他インドやイランの一部地域では自然放射線量が年間10mSv程度のところもありますが、今のところこれらの地域でがんの死亡率や発症率の顕著な増加は報告されていません。

妊娠初期の胎児への影響については、歯科のレントゲン撮影は直接お腹にX線を照射しません。

また、胎児への影響が発現するのは一度に100mSvの線量を受けた場合に相当するため、歯科におけるレントゲン撮影は胎児に影響を与えないと考えられます。

（環境省：放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（平成30年度版）より一部引用）



■問い合わせ 岡谷下諏訪歯科医師会 電話23-8320